

メディアコミュニケーション演習/

Media Studies in English と日本語

担当教員: 志柿浩一郎 Instructor: Koichiro Shigaki

Image Creator: Kittisak_Taramas | Credit: Getty Images/iStockphoto

Outline

- リフレクションのチェック・共有
- **ゼミ専用日英フレーズ集をつくる (Creating useful phrase lists for this course)** 例: 「先生わかんないすっけど、どうしたらいいですか」など、使いそうな言葉を英語にしてリストをつくる (課題にはしていたけど、東洋大は教職員含め、構成員全員、基本詳細な指示がなければ、誰も動かない文化が根付いている感じ。もうゼミ内でやってしまう)
- **グループ活動 1:** 英語だけではなく、語学学習全般で嫌いな部分を共有する。一体どこから毛嫌いするようになったのか、その問題の根源が何か、何が要因か、洗い出す。どうしたら嫌じゃなくなるかお互いに解決策を見出してみる。
- **グループ活動 2:** 発表テーマの大枠を決めたら、発表15分~20分に収まる内容にするために、曖昧な興味・動機ではない状況にし、具体的な内容に落とし込む、または対象を絞り込み明確にしていく作業をする (これは来週以降も)

リフレクション
提出してくれた人
Thanks!

まず「グループ」でやること

Outline

- **ゼミ専用日英フレーズ集をつくる (Creating useful phrase lists for this course)**
- **グループ活動 1:** 英語だけではなく、語学学習全般で嫌いな部分を共有する。一体どこから毛嫌いするようになったのか、その問題の根源が何か、何が要因か、洗い出す。どうしたら嫌じゃなくなるかお互いに解決策を見出してみる。
- **グループ活動 2:** 発表テーマの大枠を決めたら、発表15分～20分に収まる内容にするために、曖昧な興味・動機ではない状況にし、具体的な内容に落とし込む、または対象を絞り込み明確にしていく作業をする（これは来週以降も）

フレーズリスト、サバイバル・授業内カジュアル会話辞書を作る（必要に応じて付け加えられるようにもする。カレントで使いそうなフレーズを加えても可）

Create phrase lists, survival/casual expression self-dictionary (make sure you can edit when it is necessary. You can include any phrase you may have learned (learnt) in so called “Karento-Ingurish (any English class)”

フレーズリスト作成ガイドライン

- スラングを含めて構わない
- Fワード、swear word (下品な言葉) 使い方とタイミングを勉強するのであれば、加えてOK (ただし人格を否定する表現になる場合は注意)
- カレントで先生に質問したり、会話練習習ったフレーズも、使えそうなら加えていく
- 友達やクラスメートに声をかける場合のフレーズも日本語から考えて、加える
- 普段大学生活で使用しているだろう日本語の言葉を英語にし加える (落単、楽単、負担が多い、意味わからん、情報量多すぎ、複雑すぎ、難しい、サークル、再履、留年、インカレ、行けたら行くわ、自主休講、早起きしてレポやる (実質しない)、詰んだ、教授が仏 (神) あるいは鬼、〜くね? 草、などなど)

フレーズリスト作成ガイドライン

- スマホでも編集、また閲覧できるようにしておこう
- Google Documentを代表が作成（グループで共有）
- グループメンバーと一緒に作成
- テンプレートを参考に、挨拶、質問、スラング、学生造語と項目を作っていく
- 日本語: 英語併記（表現、文法、ニュアンスに不安があれば随時Koachに確認）
- 見やすくリストをつくる

発表テーマの選択し、対象を明確にする

- メディアを何故学ぶか (1グループのみ)
- メディア史: メディア史:メディア技術がどう発展し、社会がどう変わっていったか (2グループ)
- メディア表象の問題:ステレオタイプ、ファッション、インスタのイメージ、ルッキズムなどが含まれる (2グループ)
- メディアの影響①: 自分達の考えや視点にどう影響していると思う? (この場合のメディアは媒体) (2グループ)
- メディアの影響②:プロパガンダの歴史、アジェンダセッティングなど (2グループ)

例1

- メディアの影響①②

→ 予想として「メディアは影響が強いです」「メディアは影響力が強いので、批判的に見ていかなければなりません」になりがち。それではメディア学科にしながら、何をしてきたと言われる

→ メディアの影響で何が問題になるのか？

→ ネットというのを取り上げると「ネットで生活様式がどう変わったのか」は良く選ばれるテーマ。でも、何故それが問題となるのか？先生だったら、シンプルに「別に変わってもいいじゃん、何が問題なの」って言いたいがね。そこを考える

→ ネットだけをとってもまだ大きなテーマ。具体化していく。例えばSNS。SNSでも色々ある。Line? Instagram?

→先生が思いつくもの: Instagramと学生の表現活動、Instagramと学生の自尊心の高低、SNSへの学生の依存度と学業成績の関係

例2

- ・メディアを何故学ぶか（1グループのみ）
 - 「虚偽情報を鵜呑みにしないようにするためです」みたいなことは言わない。それは表層的な問題。学校の先生や生徒が言いガチ
 - メディア論、マスコミュニケーション論、メディア学、社会情報学といった学問になっている理由を考える
 - メディアというのが何故研究されているのか？が重要
 - なぜ制作や実践的なことと平行してやらないといけないか（何故日本の大学では学問的なものになってしまっているか）
 - 可能なら、難しい言葉を使用して、大事であることを説明する。メディアは成長分野で巨大なビジネスチャンスがあるから・メディアから発せられるメッセージには特定のイデオロギーを含み、無意識のうちに送信し、受信している、などなど。

予習・課題

授業外学修

- 英語の自学自習（来週、勉強法を伝える。授業用webページでは詳細に伝える）
- 研究計画書作成準備のために、テーマを決める（Slackで先生に共有）（大半していないので、もうタイトル決めるところから、Googleフォームを先生が作成するので、そこに5月24日まで記入）

上記に関して: 「Youtube/Netflixはなぜ成功したのか」や「SNSで求められるスキル」「フェイクニュースを見破る方法」といった安易なテーマから離れる訓練をしていく

授業外学修

- グループで作成しているだるうフレーズ集を継続して作る。
- **5月24日**（1回目の締め切り）に1度先生に共有。（授業内で確認するけど、もう何もしない感じになりそうなので、1回提出してもらおう）
- フレーズは声に出して練習する。発音が気になるのであれば、授業時間などを利用し、先生に確認する。
PCやスマホ自動読み上げ機能を英語にして読ませる